

弁脈法第一

弁脈法第一

弁脈法第一

1

問曰、脈有陰陽、何謂也。答曰、
 凡脈大、浮、數、動、滑、此名陽
 也。脈沈、澹、弱、弦、微、此名
 陰也。凡陰病見陽脈者生、陽病見
 陰脈者死。

問いて曰く、脈に陰陽あり、何の謂ぞやと。答
 えて曰く、凡そ脈大、浮、數、動、滑、此れ陽
 と名づくるなり。脈沈、澹、弱、弦、微、此れ
 陰と名づくるなり。凡そ陰病に陽脈を見ずものは
 生き、陽病に陰脈を見ずものは死すと。

訳

問い。脈象を陰脈と陽脈に分けるのは、一体どういうことでしょうか。答え。およそ脈象が大・浮・
 數・動・滑のものは陽脈と呼ぶ。脈象が沈・澹・弱・弦・微のものは陰脈と呼ぶ。一般的に言うのと、
 陰性の病証に陽脈が出現する場合は予後は良好であるが、陽性の病証に陰脈が出現すると予後不良で
 あり、多くは危候に属す。

提要

本条文では、陰脈と陽脈を弁脈の綱領とすることを述べている。

2

問曰、脈有陽結陰結者、何以別之。
 答曰、其脈浮而數、能食、不大便
 者、此為實、名曰陽結也。期十七
 日当劇。其脈沈而遲、不能食、身
 体重、大便反艱、名曰陰結也。期
 十四日当劇。

問いて曰く、脈に陽結陰結のものあり、何を以て
 之を別つかと。答えて曰く、其の脈浮にして數、
 能く食い、大便せざるものは、此れ実と為し、
 名づけて陽結と曰うなり。十七日を期して当に
 劇しかるべし。其の脈沈にして遲、食すること
 能わず、身体重く、大便反つて艱きは、名づけ
 て陰結と曰うなり。十四日を期して当に劇しかる
 べしと。

訳

問い。脈象の陽結と陰結にはどのような違いがあるのでしょうか。答え。病人の脈象が浮で數、よく
 食べて大便秘結するもの、これは陽熱実証であり、陽結と呼ぶ。第十七病日には、病情は激しくなる
 はずだ。もし病人の脈象が沈で遲、食が進まず、身体が重く、大便がかえって秘結して硬いものは陰
 結と呼び、第十四病日に病情は激しくなるはずだ。

提要

本条文では、陽結と陰結という病証は脈象にもとづいて判断する、と述べている。

3

問曰、病有洒淅惡寒、而復發熱者
 何。答曰、陰脈不足、陽往從之、
 陽脈不足、陰往乘之。曰、何謂陽

問いて曰く、病に洒淅として惡寒し、而して復た
 發熱するものあるは何ぞと。答えて曰く、陰脈不
 足し、陽往きて之に従い、陽脈不足し、陰往き

不足。答曰、仮令寸口脉微、名曰陽不足、陰氣上入陽中、則洒淅惡寒也。曰、何謂陰不足。答曰、尺脉弱、名曰陰不足、陽氣下陷入陰中、則發熱也。陽脉浮、陰脉弱者、則血虛、血虛則筋急也。其脉沈者、榮氣微也。其脉浮、而汗出如流珠者、衛氣衰也。榮氣微者、加燒針、則血留不行、更發熱而躁煩也。

て之に乗ずと。曰く、何をか陽不足と謂う。答えて曰く、仮令寸口の脉微ならば、名づけて陽不足と曰い、陰氣上りて陽中に入れば、則ち洒淅として惡寒するなりと。曰く、何をか陰不足と謂う。答えて曰く、尺脉弱、名づけて陰不足と曰い、陽氣下陥して陰中に入れば、則ち發熱するなり。陽脉浮に、陰脉弱なるものは、則ち血虚し、血虚すれば則ち筋急するなり。其の脉沈なるものは、榮氣微かなり。其の脉浮、而して汗出ずること流るる珠の如きものは、衛氣衰うるなり。榮氣微かなるものは、燒針を加うれば、則ち血留まりて行かず、更に發熱して躁煩するなりと。

注釈

- ① 洒淅——冷水をかぶった時に感じる、ぞつとする感覚。
 ② 從——隨う、服従するの意。陽は上に、陰は下に在る。陰が不足すると、陽氣は下陥して陰中に入る。上から下へ就く、それで「從」と言う。
 ③ 乘——凌侮、力づくで侵略すること。陰氣は上って陽中に入る、下から上へ凌駕する、それで「乗」と言う。
 ④ 燒針——火針、温針のこと。

訳

問い。身体に冷水をあびたような悪寒があり、その後に發熱してくるのはどうしてでしょう。答え。陰脈が不足すると、陽氣はその虚に従い、陽脈が不足すると、陰氣はその虚に乗ずるからだ。問い。何を陽不足と言うのでしょうか。答え。もし寸口の脈が微ならば、これを陽不足と言う。この時、陰氣は虚に乗じて下から上へと凌いで陽中に入る。すると冷水を浴びたような悪寒を感じるのだ。問い。では、何を陰不足と言うのでしょうか。答え。尺脈が弱のものはこれを陰不足と言う。この時、陽氣は陰氣の虚に随って陰中に下陥する。それで發熱がおこるのだ。陽脈（寸部の脈）が浮で陰脈（尺部の脈）が弱であれば、血虚の徴候である。血が虚すと筋脈が攣急する。尺脈の沈は榮氣が微弱であることを示す。寸脈が浮で、水珠がしたるように汗が流れ出るのは、衛氣が衰え竭きたことを意味する。榮氣が微弱となった病人に燒針治療を行うと、榮血は凝滞して流れなくなるので、患者はさらに發熱し、躁煩して落ちつきがなくなる。本文では、寸部と尺部の脈象を述べ、「陽從う」と「陰乗ず」の二つの虚証について論じている。

4 四

脉謫謫如車蓋者、名曰陽結也。
 脉累累如循長竿者、名曰陰結也。

脉謫謫として車蓋の如きものは、名づけて陽結と曰うなり。脉累累として長竿を循らすが如きものは、名づけて陰結と曰うなり。

注釈

- ① 謫謫——盛んな様子を示す。浮大の脈象を形容している。